

最上川流域の紅花システム
～歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～
(山形県最上川流域)

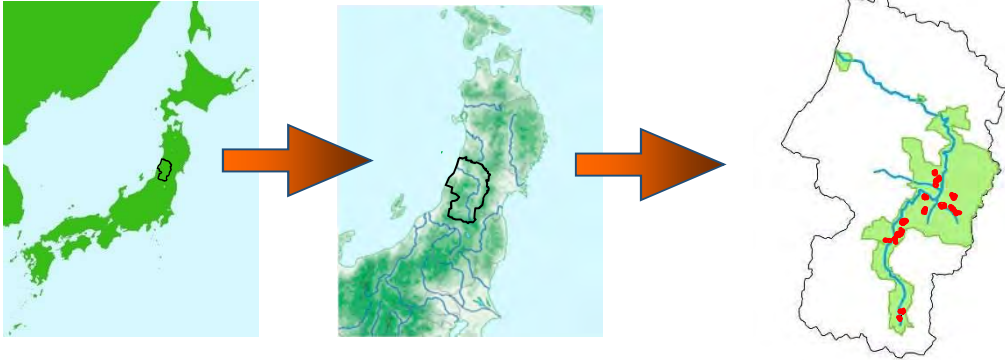
GIAHS申請書



2021年10月

山形県紅花振興協議会

I. 概要情報

農林水産業システムの名称 最上川流域の紅花システム～歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～
申請団体、連絡窓口の情報 山形県紅花振興協議会 Tel +81-23-630-2458 組織構成：観光関連団体、染色関連団体、料理学校、行政機関、生産者
担当省、連絡窓口の情報 農林水産省 Tel +81-3-6744-0250
申請地域の位置 ・申請地域名：山形県最上川流域  ・申請地域の位置 日本の本州の日本海側北部に位置する地域 ・地理座標 北緯:37° 50' - 38° 27' 東経:140° 02' -140° 26' E 赤：申請地域 緑：バッファ地域
主要都市から申請地域までのアクセス 東京駅⇒ 150分（鉄道）⇒山形駅 東京国際空港⇒ 60分（航空機）⇒ 山形空港
申請地域及びバッファ地域の面積 申請地域の経営耕地総面積 1,375ha バッファ地域：17～18世紀に紅花の栽培をしていた記録がある地域
農業・林業・漁業・水産養殖業のための農業生態学的地帯 Steep terrain、Humid、moderate soils、Humid、poor soils
地形的特徴 最上川流域に広がる肥沃な畑地、水田および最上川を挟む山地
気候区分 コッペンの気象図:Dfa 年平均気温 12.7℃ 年間降水量 1,243.5mm 明確な四季の変化を有し、積雪地帯である。
人口 申請地域の農業経営体数 617
民俗性または先住民の人口 該当なし
主な生計源 農業、食品製造業、観光業

II. 農林水産業システムの概要

最上川流域は、地形や気象条件を活かし、小規模な農家が昔ながらの知恵である繊細で複合的な土地利用によって、「赤」の伝統的な染色用作物である紅花の栽培及び染色用原料の生産を行う（以下、「紅花システム」）世界でも類を見ない地域である。

最上川とその支流は、周辺を多雪の山脈に囲まれており、流域では、山脈と河川間の地形や水循環を利用し、紅花を多様な作物との輪作等によって生産している。主には、次のような土地利用を行っている。（１）傾斜地では雪解け水や自然降雨で生育する紅花や多様な農作物を、平坦な水利のよい場所では基幹作物である水稻を栽培する土地利用、（２）輪作を前提とすることで土壌の健全化や減収リスクの軽減を図る土地利用、（３）紅花と他作物を二毛作により栽培することで、雪国の８か月しかない耕作期間を最大限有効に活用する土地利用。

紅花は、世界では採油用として栽培されることがほとんどだが、当地域では伝統的な赤の染色用原料として450年前から栽培されている。原産地の中近東から、シルクロードを西から東に伝わるなかで世界各地に広がったが、染色用として生産する農業システムが現存するのは、世界のなかでも当地域のみである。

紅花生産は、先述の土地利用のもと、肥沃な土壌や、豊富な日射量と収穫時期に最上川流域に発生する川霧などの気象条件を活かす農地で行われている。この紅花畑やその周辺には、適切な農地管理によって育まれる希少な植生が存在し、紅花畑自体は訪花昆虫の夏季の貴重な蜜源の場所となっている。このように当地域の繊細な土地利用は、これらの要素すべてが相互に支えあって成立しており、当地域特有のパッチワークのようなランドスケープを形成している。

生産者は、染色用原料の「紅餅」への加工を自ら行うが、収穫した紅花の花弁を酸化させる工程を経て赤色素の含有量を高めるといふ、19世紀に描かれた屏風絵と変わらない伝統的でユニークな技法を現在まで引き継いでいる。

「紅餅」は、最上川と日本海の舟運により日本文化の中心地である京都に輸送され、「米の100倍、金の10倍」の価値で取引された。伝統的な装束、神事に使われる赤色の染料として、日本の伝統文化の成立に貢献した。京都とは文化の交流が行われ、現在も当地域の生活文化に息づいている。地域の小中学校ではこのような紅花の歴史や文化の学習に取り組むとともに、栽培体験を行うなど紅花システムの伝承を図ることで、将来の世代に対する価値を広める機会が増えてきている。

最上川流域の紅花システムは、2019年に日本農業遺産に認定された。地域住民は、申請活動を通して、システムを将来に継承すべきとの意識を育み、紅花の生産者は右肩上がりに増加している。アクションプランでは、紅花システムの永続のため、世界農業遺産の認定を契機として生産面積のさらなる拡大を提唱している。世界で唯一の赤色染料の農業生産という価値に誇りを持ち、保全活動や地域振興に一層努力していきたい。

最上川流域の紅花システム

～ 歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～

最上川流域は、地形や気象条件を活かし、小規模な農家が昔ながらの知恵で ある繊細で複合的な土地利用によって、「赤」の伝統的な染色用作物である紅花の栽培及び染色用原料の生産を行う世界でも類を見ない地域である。

繊細な土地利用

春～夏
野菜



キャベツ, 枝豆

輪作

春～夏
紅花



二毛作

夏～秋
野菜



青菜, 蕎麦

自然の再生力を活かした
農産物の多様性

地域特有の
食文化を育む

冬
降雪

最上川流域の 生態系機能

訪花昆虫の貴重な蜜源
(ニホンミツバチなど)



春
雪解け水

夏
川霧

川霧によって紅花の
とげが柔らかくなる

紅花畑



紅花染めの着物

赤の染色原料「紅餅」

最上川

水田

染色原料をつくる
伝統的な技術